

【資料2】

第3回角田市長期総合計画審議会資料 トップインタビューの結果について

実施日時 : 2020年10月5日 10:00～12:00

場 所 : 角田市市長応接室

「第5次長期総合計画」について

◆ 現行の「第5次長期総合計画」が令和3年度で終期となるため、まさに今が総仕上げの時期となっておりますが、市長からご覧になられた現行の「総合計画」についてお聞かせください。

- 「第5次長期総合計画」では、職員一丸となり、地域の皆様と連携しながら各施策に取り組んできており、計画の実績に対する職員の意識と市民の意識に乖離があることに少し意外感を持っている。
- 理由としては、角田市を取り巻く環境が人口減少や財政状況の悪化により厳しさを増すなか、市民アンケートの実施時期が、昨年台風19号による被害の復旧時期に重なったことに加え、新型コロナウイルス感染症の拡大により市民の不安が高まっていたことや、「第5次長期総合計画」に基づいて進めてきた取り組みの内容が市民に十分に届いていなかったことが考えられる。
- 「安心度」および「利便度」、「快適性」、「成長力」、「裕福度」の5つの視点から、周辺市町、宮城県および全国と比較した場合の角田市の位置づけを見ると、「利便度」と「快適性」が高い一方、「成長力」の点で低い結果となっている。これは、角田市の強みとなる「利便度」と「快適性」が活かされず、地域の発展につながっていないためと思われる。

■ 長期総合計画の各項目について

- 第1章 「人が集い賑わいのあるまち」
 - ・「協働によるまちづくりの推進」にかかる施策の進捗度・方向性と市民の満足度・重要度については、予想以上に乖離がある。理由としては、市の周辺部では協働の意識が高いものの、中心部では協働への意識が相対的に低いことが考えられる。
- 第2章 「調和のとれた産業のまち」
 - ・角田ブランド「5つのめ」は浸透したが、産業振興の観点でブランドが活かしきれていない。
 - ・農林業の振興では、担い手対策や中小の農家支援等に取り組んできたが、商業は衰退が著しく、課題が多いと認識している。
 - ・若年層が市外に流出している現状を踏まえると、魅力的な就業機会、労働環境の形成が必要である。
- 第3章 「みんなで支え合う健康で元気なまち」
 - ・産婦人科や小児科が消滅するなど、医療体制は悪化している一方、老人福祉分野ではサービスの充実を進めてきた。
 - ・子育て環境については、課題が多いと認識している。

「第5次長期総合計画」について

- 第4章 「心豊かな個性を育むまち」
 - ・学校の統廃合の影響もあり、教育環境のテコ入れが必要。学力向上のみにとられるのではなく、人間力の育成も重要だと考えている。
 - ・これまで、芸術文化面よりも地域スポーツの振興に力点を置いてきたため、今後は図書館整備等の芸術文化活動の推進や、生涯学習の充実に注力する必要がある。
- 第5章 「安全・安心で快適なまち」
 - ・阿武隈急行が被災すると、市外の病院に通うための手段が限られてしまうなど、公共交通に課題が多い。
 - ・角田市はこれまで災害に強いとされてきたが、昨年台風19号による災害では市街地に雨水が流入するなど、脆弱な部分が露呈した。
- 第6章 「持続可能な行政運営を目指して」
 - ・「第5次長期総合計画」を策定した10年前はリーマンショックの影響があったが、現在も人口減少により税収が減少し、状況は厳しさを増している。
 - ・市民の意識との乖離を埋めるためにも、情報化社会への対応のほか、情報発信力の強化を進めていく必要がある。

1. 総論

角田市の「将来の都市像」および 「将来の都市像」の実現のために検討している課題や施策等について

◆ どのような角田市の「将来の都市像」を思い描かれているかについてお聞かせください。併せて角田市の強みについてもお聞かせください。

■ 将来の都市像について

「幸福度の高い角田市」「幸せを感じるまち」

- 公共福祉の増進
- 物質的な豊かさより心の豊かさを大切にしたい
- 子どもたちが住みよい環境を提供したい
- 縮小する社会の中でも、「ここに暮らしたい」、「ここに子どもたちを住ませたい」と思えるまち

■ 角田市の強みについて

- 幸福感を構成する要素を備えている。
 - ・自然環境(山や川の恵み、おいしい空気)
 - ・阿武隈川がもたらす肥沃な土壌(農業の潜在的な力となる)
 - ・地理的な条件(温暖な気候、津波の被害がない)
 - ・人柄の良さ(温厚、あたたかい人柄)
 - ・市民力・人間力を基とした地域力がある
 - ・健康とスポーツへの取り組みによる関係人口の増加(運動公園でのスポーツイベントの開催、県外の学校による合宿の誘致)

◆ 「将来の都市像」の実現のためにご検討されている課題や施策等について、お聞かせください。その中で、特に重点を置かれているものがございましたら、併せてお聞かせください。

■ 市民のポテンシャル・市民力を発揮できる環境づくり

- 市民力を発揮できる環境づくりをとおして、地域力を高めていくには連携が重要。
- SDGsの考え方にも通じるが、高齢者から若者に至るまで全ての世代が活躍し、生き甲斐を感じる環境づくりを進めていく必要がある。

■ 災害に際してどのように市民を守るか

- 行政によるハード面の整備には財政面の制約がかかるため、市民の意識の醸成等、ソフト面での取り組みを進めていく必要がある。

■ 幸福度の向上

- 幸せの要素となる子育て環境、教育環境および就業環境の充実が課題であり、弱みを強みに変えていく必要がある。

■ 持続可能な行政運営

- 職員との協力による行政運営に取り組むとともに、情報公開を通じて、行政運営に対し市民の理解を得ていくことが重要となる。

「所信表明」における5つの重点目標について

◆ 「命を守り豊かにはぐくむ、安心安全なまちづくり(防災・減災・医療・福祉)」に関する取り組みについて、お聞かせください。

■ 地域医療体制の充実

- 関係機関に働きかけながら、国や県の制度を活用し、産婦人科や小児科等、医療体制を充実させていく。
- 広域医療圏単位での体制の充実を図り、市民の理解を得ながら包括ケア体制を形成させていく。

■ 公共交通システムの充実

- 角田市の中心部は「盆の底」ともたとえられ、農家の人々の営みや防災面を考慮すると、コンパクトシティ化は現実的ではない。
- 市内における交通手段は自家用車、デマンドタクシーおよび阿武隈急行が中心となっているが、周辺部と中心市街地、駅と中心市街地、角田市と都市圏をつなげる交通の充実が重要となっている。
- 地域の足として使われるが観光の足として使われていないデマンドタクシーのテコ入れやタクシー運転手の高齢化・担い手不足への対策、路線バスとスクールバスの効果的な運用、角田市と他市町を結ぶ交通手段が課題となっているが、既存の担い手だけでなく、民間の知見を借りながら、カーシェア等の可能性も含め、検討していく必要がある。

■ 防災・減災

- 昨年の台風19号による被害をふまえ、防災体制の見直しを図っていく。
- ハード面の整備は行政が担うことになるが、万一の状況に備えた地域毎の防災体制の構築等、ソフト面の整備は自治センターを拠点と位置づけて取り組んでいく。
- 地域のタイムライン、行政のタイムラインの構築をとおして、防災意識を高めていくことが重要となる。

■ 感染症対策

- 新型コロナウイルス感染症の拡大前の状況に戻ることは困難である。今後、新しい生活様式を念頭に置いた指針を行政として示すにあたり、市民の協力を得ながら感染症対策に取り組んでいく必要がある。
- 対策を進めるにあたっては、感染者に対する誹謗中傷への対応に留意していく必要がある。

「所信表明」における5つの重点目標について

◆ 「子どもたちと共に、生きる力を養う、ひとづくり(少子化・子育て・教育)」に関する取り組みについて、お聞かせください。

■ 子育て支援の推進

- 第5次長期総合計画に取り組んできたなかで、子育て支援にかかる制度の整備や推進体制は整えられてきた。今後は、情報発信をとおして、市民に知ってもらうことが重要である。
- 医療費や保育費、給食費等の経済的な負担の軽減も必要と思われるが、「子育てとは何か」を父母をはじめとした市民と考えながら、取り組んでいく必要がある。
- 遊び場や子ども食堂等、子どもがコミュニケーション力を養う場が必要だが、予算上の制約を念頭に検討していく必要がある。
- 子どもが減っていない地域の事例を研究する必要がある。
- 子どもを家庭だけの力で育てようとするのではなく、地域で育てる観点も必要であり、学校教育だけでなく統廃合で学校が廃校となった地域等の意思も取り込んでいくなど、コミュニティスクールの考え方が参考となる。また、ICTを活用した教育環境の整備も必要となる。
- ふるさと学習をとおして角田市に誇りを持ってもらい、就学や就職で県外に一時的に転出したとしても、将来的に角田市に戻ってきて活躍するような人材を育てていきたいと考えている。

◆ 「連携を強める」について、お聞かせください。

- 国・県との連携
 - ・国や県とのパイプを太くするとともに情報に対するアンテナを高くし、補助金を活用しながら防災対策等に取り組んでいく必要がある。
- 自治体間の連携
 - ・広域医療圏の形成等、自治体間の連携によるメリットを顕在化させていく必要がある。
- 地域の連携
 - ・行政だけでは、財政面やマンパワーの面から行政運営は困難であり、地域を核とした自治意識の涵養、協働の意識向上に向け、行政が支えていくことなど、行政と市民との連携により施策に取り組んでいくことが重要。
 - ・福祉分野では地域ごとの包括ケア社会の形成を目指す、防災分野では地域における防災意識の涵養を図る、地域教育や生涯学習の分野では地域協働で人を育てるなど、市民力の結集により市民に活躍してもらう必要がある。

2. 各論

「所信表明」における5つの重点目標について

◆ 「地域産業の振興(産業支援、持続可能な行政経営)」に関する取り組みについて、お聞かせください。

■ 農林業の振興

- 新型コロナウイルス感染症の拡大により、食の安全確保・食のセーフティネットが注目されるなか、角田市の存在意義が意識される。角田市の強みとして農林業があげられ、担い手の支援や農産品の6次化、ICTの導入等、時代の潮流に乗った稼げる農林業への取り組みが必要である。

■ 商業

- 商工会議所や工業界と連携しながら、農産品のブランド化や市内の農産品の有効活用等、「食」を基軸とした取り組みが有効だと考えている。

■ 就労環境

- 市内に第2次産業が集積していることを踏まえ、企業との連携を密にし、企業のニーズや課題を施策に反映していく必要がある。
- ウィズコロナの時代においては、角田市の強みである自然環境の良さをアピールし、今後の「働き方の変化」に対応していく必要がある。
- 起業支援についても、工夫しながら継続して取り組んでいく必要がある。

◆ 「地域活性化」に関する取り組みについて、お聞かせください。

■ スポーツと健康

- 角田市の強みとして、18の運動が可能な総合運動施設があげられる。施設を活用したスポーツイベント等をとおして、今後も関係人口の拡大を図っていく。
- 豊かな自然環境を活かしたウォーキングイベントやサイクリング大会を開催する等、スポーツと健康、スポーツと食による地域の活性化を今後も進めていく。

■ グリーンツーリズム

- 食や自然環境を加味した魅力の発信が重要。「モノ消費」から「コト消費」に嗜好が移っており、「コト消費」を意識しながら地域産品の付加価値を向上させ、思い出づくりや交流の場の提供をとおして、関係人口の拡大につなげていく必要がある。
- 将来的には、農泊や農食等、観光産業の振興につながれば良いと考えている。

■ 情報発信

- アピール方法の検討や情報の透明化により情報発信力を向上させ、角田をより有名にしていく必要がある。

3. その他

「ウィズコロナ」についての取り組みについて

◆ 「ウィズコロナ」についての取り組みなどお考えがあれば、お聞かせください。

- 新型コロナウイルス感染症の拡大はマイナス面が意識されることが多いが、角田市の強みを活かした施策を検討する等、考え方を変えてプラスに捉えていく必要がある。
- ICTの導入
 - ICTの活用は行財政の面でもメリットがあると思われるため、ICTの導入を前向きに検討していく必要がある。
- 働き方改革
 - 角田市の強みである自然環境の良さを活かした企業誘致、「角田ならこういう生活ができる」という情報の発信等、事業者の既存の事業と農業、企業と従業者の関わり合いの提案に取り組んでいく必要がある。